

納得して納税するために

鶴岡市立鶴岡第三中学校 3年 新田 典

新聞でこんな見出しを見つけました。「国税滞納額が二十二年ぶり増。」令和二年度末時点の国税滞納額が8286億円。私が住んでいる鶴岡市の令和三年度の予算額の十倍以上の税金が納められていないということに私は驚きました。私たちの生活は税金で守られています。単純に言い換えると、鶴岡市の人口の十倍以上の人々の生活が守られないかもしれないということです。

国税のことをあまり知らなかった私はどんな税金が滞納されているのか調べてみました。令和二年度に新たに生じた滞納額六億円の内訳を見ると、最も大きいのが消費税で約六割。次に多いのが所得税で約二割。この二つで全体の八割を超えます。

私はここで一つ気になりました。滞納が大きい税に共通しているのは、どちらも税金を負担している本人が納税していないということです。私たち中学生も払っている消費税。私たちが税務署に払うわけではありません。また、所得税は勤め先から受け取る給料から差し引かれます。勤めている人が税務署に払っているわけではありません。

では誰がこれらの税金を払っているのでしょうか。消費税はお店であり、勤めている人の所得税は勤め先です。これらの税がたくさん滞納されているということは、多くのお店が人々から税金を預かっていながら税務署に納めていないことを意味します。お店や会社に支払った消費税が税務署に納められていないとは誰も思いません。

お店や勤め先を信用しているからこそ私たちは税金を払うのであり、その信用が崩れれば人々はその他の税金さえ納めなくなってしまうかもしれません。これでは税制度が壊れ、人々の生活は守られません。消費税や所得税をきちんと納めてもらうかが人々から信用を得て税を納めてもらえる第一歩だと思います。

さらに、人々から信用を得て税を納めてもらうには税の使い道も信用できるものでなければいけません。効率的に使う、社会や生活の質が今より良くなることに使う、目先の利益を求めず長期的な視点に立つ、などが求められると思います。

しかし、コロナ禍で自分の生活、事業の経営が苦しいという方々がいるのをテレビで見ます。税金を納めたくても納められない人や経営者の方はたくさんいると思います。滞納されている税で二番目に多いのが、主に自営業・個人事業主が納める申告所得税であることからわかります。国税庁によれば、コロナ禍で大きな影響を受けた場合は支払い期間を伸ばせる制度もあるそうです。税金の支払いが大変だという人はこのような制度があることを知ってほしいです。

人々が生活を維持しながら納得して納税してもらえれば、社会はきっとより良いものになっていくのだと思います。